

学校図書館支援センター通信 166号

令和4年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

実践紹介

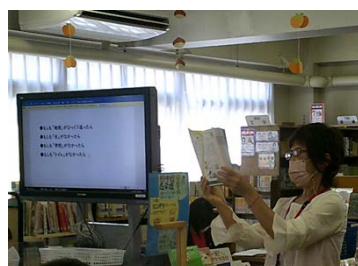
ブックトーク「もしも〇〇がなかったら」 ～持続可能な未来を創るために～

第八中学校

市川市立第八中学校の学校司書・荻原身知子さんは、6月に2年生、9月に1年生を対象に「もし〇〇がなかったら」をテーマにブックトークを取り入れた授業を展開しました。

荻原さんは常々、小学校から積み上げてきた読書教育を推進し、一人一人の読書量を増やしていきたいとの思いから、ブックトーク等の時間を少しでも作ってもらうよう学級担任に呼び掛けてきました。その思いと、「わかりやすい授業がしたい」という担任の思いが合致して今回の授業が実現となりました。

今回のブックトークでは、「もしも“水”がなかったら」「もしも“トイレ”がなかったら」など、生徒自身の身近で起こりうることから、「もしも“地球がひっくり返ったら”」など、現実では想像できないような内容のものなど3類、4類、5類、9類の計8冊の本を紹介しました。



内容にも踏み込み興味を誘っている様子



本を1冊1冊紹介する荻原さん

ブックトークの最中には、荻原さん自身の体験談を織り交ぜながら、「水があれば2、3日は生きられる。トイレは誰もが行くもので、トイレに行かなくても生きていけるのか？」など、生徒に疑問を投げかけ、本の興味を誘っていました。生徒たちは、このテーマについて自分たちなりに考えている様子が見られました。

このブックトークは「持続可能な未来を創っていくためには何ができるのか」という課題意識を持つための第一歩となる取組となりました。

<生徒の感想>

- ・中学校に入ってから本はあまり読んでいなかったけど、ブックトークを通して、本のおもしろさや魅力がわかった。本を読みたいと思った。
- ・私はチョコレートが無くなったら耐えられないと思った。世界には不自由な生活を送っている人も多いから、私たちは幸せだなと思った。
- ・いつも当たり前のものがなくなったら、すごく大変なことになるんだと思った。これからは当たり前のことに感謝して過ごしたいと思う。
- ・トイレが無い生活を送っている人が3人に1人いるのがビックリ！図書室にとてもおもしろい本がいっぱいあったので、今度から使ってみようと思った。
- ・身近な水やトイレは安全で衛生的なものを使える人が少ないことを知った。私たちには何ができるか考えさせられた。
- ・「〇〇がなかったら」というテーマにしばらく聞くと、事の重大さがより伝わり、読んでみたいと思った。

【ブックトークで紹介した本】

- 〇「チョコレート・アンダーグラウンド」
- 〇「13カ月と13週と13日と満月の夜」
- 〇「アーモンド」
- 〇「世界から猫が消えたなら」
- 〇「もしも地球がひっくり返ったら」
- 〇「みずをくむプリンセス」
- 〇「もしも学校に行けたら」
- 〇「もしもトイレがなかったら」

授業力アップ 研修会

10月13日（木）に、市川市生涯学習センター内グリーンスタジオにて、4年目教員対象の「授業力アップ研修会」が行われました。

この研修は、4年目教員が学校図書館を活用した授業を展開する研修となります。

研修会の講師は、市川市の学校図書館教育の第一人者である富永香羊子先生（市川市教育委員会指導課長）です。学校図書館活用の意義、ICTとの関連性や学校図書

館を活用した授業づくりについて、ご講義いただきました。

中でも、富永先生の体験談として、「『電子辞書はダメなのか？』という質問に対し、『電子辞書で調べることは時短ということで考えれば有効な方法だが、調べたことはすぐに忘れてしまう短期記憶に保持される。一方で、紙で調べると色々と考えてその言葉にたどり着くため、長期記憶として保持されていく。また、その調べる過程で様々な言葉と出会う。』という回答をした。」という話に、受講生も納得をした様子でした。

今後は、この研修で学んだことを活かしつつ、4年目教員1人1人が学校司書と連携をしながら授業づくりをしていくことになります。

この研修を通して、学校図書館が子供たちの学習活動を支える場所として、先生方の授業改善の一助として活用が推進されていくよう支援していきます。



研修会の様子

図書館の窓から ～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～

「コロナ禍でもできることから交流しましょう！」を合言葉に、八中ブロックの第八中学校・大和田小学校・鶴指小学校・平田小学校の4校では、委員会活動として、図書委員による学校間でのおすすめ本の紹介をすることになりました。中学校のおすすめ本の出来栄に感謝し、「先生、この本ありますか？」とさっそく聞きに来る子供がいました。また、他の小学校の図書委員の作品に平田小の子供たちは興味津々の様子でした。「ちょっとした交流でも子供たちには大きな刺激となり、本とつながるきっかけになるのだ。」ということを実感できたブロック内交流の第一歩となりました。次はどんな交流ができるのか、夢が広がっています。

（市川市立平田小学校 学校司書 中山 博恵）



読書週間で作成した「おすすめ本」

『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。
市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

